謹賀新年

おれんじニュース

No.238
2010年1月号

筥崎宮の寒牡丹

★集会・委員会・行事関係のお知らせ★　★山行の一歩は会合から★

	1月			2月		
運営委員会	12日(火)	19:30～22:00	西諫早公民館	9日(火)	19:30～22:00	西諫早公民館
ひまわり集会	8日(金)	13:30～15:30	西諫早公民館	5日(金)	13:30～15:30	西諫早公民館
全体集会	26日(火)	19:00～22:00	西諫早公民館	23日(火)	19:00～22:00	西諫早公民館

迎春

今年もご指導の程よろしくお願い申し上げます

平成二十二年 元旦

（ 書 ）　下釜 ミツ子
（ 虎 ）　本秀美代子
（生花）　松園　朱實

１月の山行計画

部	初日の出参拝	山行部	技術研修部
月　　日	１日（金）	１０日（日）	２１日（木）
山　　名 （行事）	真崎城址	多良岳金泉寺参拝登山	湾奥三山を巡る 地図と磁石の習熟
地　　図	諫早	多良岳	諫早・大村・長崎東北部 ・諫早南部
集合出発	ふれあい会館 ６時３０分集合	ＪＲ諫早駅裏ﾛｰﾀﾘｰ 7：２０ ＪＲ西諫早駅前　7:30	ＪＲ西諫早駅 9:00
帰着時間	８時頃解散	17:30 頃	15:00 解散
歩行時間	２０分程度	５時間程度	すべてマイカーで移動
難 易 度	初心者	一般向き	
交通手段	徒歩	マイクロバス	マイカー
宿泊施設			
温　　泉		有り（平谷温泉）	
参 加 費		２，０００円	車代
申込期限	必要ありません	１２月２２日（全体集会）	１月１９日（火）まで
集　　約	/ /	田中	佐原
備　　考	参加者は御神酒・おつまみ・おせち等ご持参下さい。	コース 広域林道～多良岳・金泉寺～五家原岳～黒木	用意するもの 直線定規･ｼﾙﾊﾞｰｺﾝﾊﾟｽ･鉛筆･ﾏｰｶｰﾍﾟﾝ･芋煮会？ﾊﾞｰﾅｰ･ｺｯﾌｪﾙ･その他
感想提出	1/10（日）まで	1/15（火）まで	1/30（土）まで

２月の山行計画

部	技術研修部	ひまわり山行部	山行部	自然保護部
月　　日	6(土)～7 日(日)	9 日(火)	14 日(日)	24 日(水)
山　　名 (行事)	向坂山霧氷登山	今村梅林	八面山	竹崎半島一周
地　　図	五ケ瀬	諫早	大分県耶馬渓	
集合出発	JR 諫早駅裏　6:00	ふれあい会館 8:00	JR 諫早駅裏　6:00	JR 諫早駅 7:54 発
	JR 西諫早駅前 6:10		JR 西諫早駅前 6:10	
帰着時間	19:30 頃	16:00 頃	19:30 頃	16:00 頃
歩行時間	５時間程度	7 時間程度	５時間程度	５時間程度
難 易 度	初心者	一般向き	初心者	初心者
交通手段	マイクロバス	徒歩	マイクロバス	JR
宿泊施設	バンガロー 又は温泉旅館	/		/
温　　泉	有り	/	有り	
参 加 費	ﾊﾞﾝｶﾞﾛｰ:1 万 旅館:1.6 万	/	5,000 円	各自負担
申込期限	1 月 12 日	1 月 26 日(全体集会)	1 月 26 日(全体集会)	1 月 26 日(全体集会)
集　　約	佐原	林田	田中	中村
備　　考			修験の道	肥前大浦で下車 帰りは肥前大浦 15:37 発
感想提出	2/15（日）まで	2/30（火）まで	2/30（土）まで	2/30（土）まで

追 加 山 行

咲き始めの福寿草を愛でる

月　　日　　**2月25日(木)　迎烏帽子山(1302m)　　技術研修部**

マイクロバス利用

集合出発　　JR 諫早駅裏ﾛｰﾀﾘｰ 6:00　　参 加 費　5,000 円　申し込み　佐原
　　JR 西諫早駅　　6:10　　帰　　着　19:00 頃

技術研修部から

白馬スキー：12/27～1/1 雪と温泉まみれ
セルフレスキュー　　１月３０日（土）
　　２月２５日（土）
岩登り　　未定

県労山永年会員調査(20 年以上の現役)

事務局へ自主申告をお願いします(12/E まで)

30 周年記念誌発行の件

オレンジハイキングクラブ創立 30 周年記念行事の記念山行、記念講演会、祝賀会も、それぞれ盛会に開催されました。残るは記念誌の発行のみです。

会員皆さんの良き思い出となるよう、一人一編は記念誌を飾っていただきたいと思っています。なお会計年度の関係上、完成を 2010 年 3 月 9 日に予定しているため、原稿締切を 1 月 10(日)とします。また事務局からの要望で入会年月日も追記して下さい。

会員投稿依頼(各人１編以上)
紀行文、思い出、希望、山又はオレンジとの関わりなどのエッセー、エピソード、詩、短歌、俳句、スケッチなど。

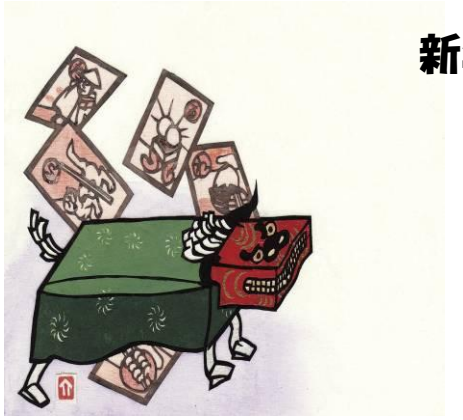
原稿締切：2010 年１月１０日　　よろしくお願いします

県連写真展実行委員会から(再度のお願い)

作品展示場所が長崎市浜町「石丸文行堂４階ギャラリー」に変更になりました。
展示期間　３月１日（月）～３月７日（日）まで
応募する方は１２月末までに、内容見本(L 版で可)を川原まで提出下さい。

新会員紹介……会員一同歓迎いたします

１月入会　　森下忠彦　さん　　諫早市在住
JR ウォーキングで本クラブの事を知り、インターネットで申し込まれました。
登山にも積極的に挑戦したいとのこと、皆さんよろしくお願いします。



新年会のお知らせ

月　日	１月１６日（土）
場　所	Ａコープレストラン
時　間	１８時３０分～
会　費	男性 5,000 円　女性 4,000 円
集　約	**富永**
申し込み	１月１３日（水）まで

オレンジHC創立30周年記念行事報告

30 年前８人の若者達が創立したハイキングクラブが今年 30 年を迎えました。

「ハイキング～ヒマラヤまで」、「楽しく安全に」をモットーに自由な雰囲気をもつクラブとして、会員も約60名になり、県内外の他クラブとの交流も活発に長崎県を代表するハイキングクラブの一つに成長しました。

12 月 5 日(土)、県連および県内外の各会、OB、関係者など多数のご出席をいただき、70～80 名でハイキングクラブらしい記念行事を開催しました。

14：00～15：30 まで日本列島内陸部を宗谷岬から沖縄、与論島、沖永良部島まで歩いて縦断した大野純生氏の講演会を開きました。

年齢(66 歳)、歩いた日数(166 日)、距離(3153km)に圧倒されるが、大野氏は淡々と苦労や楽しかった事、行く先々の情景、地方の町や村の状況、また歩くノウハウや留守を守る奥さんとの掛け合いなどユーモラスに語ってくれました。

この講演で我こそと思った方もいると思いますが、やはり一大決心と奥さんの理解・協力が必要のようです。

17：00 より津水公民館に場所を移し祝賀会をとり行いました。

福岡オレンジ HC 会長、川原県連会長のご挨拶、佐原さんの乾杯の後は、まるで同窓会のようにあちこちで積る話で盛りあがる中、日舞、謡曲、大正琴、龍踊りと、その賑やかな事。恐るべし中高年！いつまでもその元気で「楽しく安全に」ハイキングを楽しみましょう。

（鎗水）

１１月・１２月の山行報

30 周年記念山行　2009 年 11 月 13 日～11 月 16 日
（石鎚山 1982m・剣山 1955m）

〈参加者〉
１班：篠原(PL)、田中し(SL)、山下、井星、鎗水、山本、岩永の、山崎(元会員)
２班：福岡(PL)、松園(SL)、川内、松尾と、山口い、林田、兵庫、田村
３班：川原(PL)、佐原(SL)、下釜、本秀、森、林、小山、中須賀(CL)

参加者総数２４名

11 月 13 日(金)～14 日(土)
＜行　程＞17：45 西諫早発→20：50 小倉港着
→21：55 小倉港発→船中泊→松山へ
5：00 松山港着→国道 33 号線、石鎚スカイライン経由→7：50 土小屋登山口着
→ 8：15 登山開始→10：00 二の鎖小屋着→10：45 石鎚山頂(弥山)着(昼食)
→11：30 山頂発→13：30 土小屋登山口着→13：50 土小屋発
→19：25 ラ・フォーレつるぎ山着

11 月 15 日(日)～16 日(月)
＜行　程＞ 7：40 ラ・フォーレつるぎ山発→7：45 見ノ越着→8：00 剣神社発
→8：50 西島着→9：10 刀掛ノ松→10：10 一ノ森分岐→10：45 剣山頂着
→11：05 山頂ヒュッテ発→11：45 西島着→12：20 見ノ越登山口着(昼食)
→12：30 見ノ越発→しまなみ海道経由→19：00 宮島 SA(夕食)→0：15 諫早着

＜感　想 1＞
石鎚山へ

オレンジハイキングクラブ創立３０周年記念山行は、四国の百名山２峰(石鎚山・剣山)となった。１３日の夕方、ＪＲ西諫早駅から土砂降りの中をスタートした。

生憎の雨だが、参加メンバーはまるで修学旅行のように愉しげである。米田さんが新潟の酒「〆張鶴」の一升瓶を抱えて見送りに来てくれた。ドライバーはクラブが全幅の信頼を寄せている井上さんである。

いつものように金立 SA で休憩をとり一路小倉港へ向かう。乗船手続きに少し手間取ったが、関西フェリーの２等客室に無事乗船、船は 21 時 55 分に予定通り出港した。

風呂に入る者、夕食をとる者、船外の夜景を楽しむ者など、就寝までの一時を夫々に楽しんでいたが、明日の起床に備えて女性陣は 23 時過ぎには皆床に着いた。

４時起床、下船に向けて身支度をする。流石に皆さん手早い。５時松山港着岸。

ターミナルに横付けしたマイクロバスに乗り込み、いよいよ四国の道中がスタートした。

夜が明けるまでには止んで欲しいと願った雨は、小降りにはなっていたがまだ降り続いている。半分眠気眼のメンバーを乗せてマイクロバスは真っ暗な国道３３号線を石鎚スカイライン目指してひた走る。面河川の下流域に着いた頃、外はすっかり明るくなり、川岸の紅葉が目を見張るほど美しい。バスはアクセルをふかしながらカーブの多いスカイラインを登って行く。高度を増すにつれ、山肌は落葉樹の裸木ばかりになり、そのうち霧で周囲の景色は全く見えなくなった。

松山から３時間近くかかり、ようやく土小屋登山口に到着。外に出ると横殴りの風は冷たく、瞬く間に霧で服が濡れる。全員雨具を装着し、寒いので準備体操の後３班に分かれてすぐ出発した。天候が思いの外厳しかったため、風邪が回復して間もない小山先生は用心してバスに残られた。

西日本最高峰の修験の山として、石鎚は古くから信仰登山が盛んである。そのせいか、登山道は整備され歩き易い。なんとなく仁田峠からあざみ谷に抜ける道筋に似ている。

すっかり葉を落としたブナやかえでの自然林を登っていくと 50 分くらいで休憩地に着いた。晴れていれば眺望抜群の場所のようであるが、霧で全くの視界不良である。

一服してスタート、道筋によって風の強さが大きく変化する。頬を刺す冷たい風に霙が混じりだした。10 時に二の鎖小屋に到着、ここで、クサリ場挑戦組と頂上への迂回路コースを辿る組に別れた。クサリ場挑戦組は１３名である。先頭の福岡リーダーの後を、大きなクサリにつかまりながら、岩場を確保して一人ずつ登って行く。霙混じりの冷たい風に手がかじかんでくる。岩は濡れて滑り易く、足場の確保に苦労しながら登っていくと、「ダメ！ダメ！ここから上は危のうして登れん、下ったほうが良か！」という福岡リーダーの声が聞こえてきた。登りのクサリ場の右の斜面に下り用のクサリ場が見える。全員登り始めていたので、一応引き返し地点まで全員登り、福岡リーダーに続いて降りることになった。下りの足場は登りより難しそうである。滑落しないよう神経を集中し、冷たいクサリにつかまりながら懸垂下降の要領で下った。今年は、初めて沢登りと岩登りを１回ずつ経験していたせいか、不思議と恐怖感はなかった。私は井星さんに続き３番手に降りたので、次に下ってくる山崎さんに足場を下から教えていたが、全員が下ってくるまでにはかなりの時間を要するため、下降が済んだ数人とクサリ小屋で待機することにした。

小屋の中に、夫婦一組と男性一人が暖をとっておられた。３人の話を聞くとはなし聞いていると、「宮之浦岳でも韓国岳でも九重でも貴方とお会いしましたね、ここでもお会いするなんて奇遇ですね、目的が同じなんですかねー」と笑いあっている。「百名山挑戦ですか？」と私が尋ねると、「そうです」と男性が答えた。多分、夫婦もそうなのだろうと合点。

下降終了組が半数くらいになったので、先行の迂回路組の後を追うことにした。こちらは鉄骨の足場が要所に組まれた登山道になっていたが、頂上目指しての急登は息が上がりそうで

ある。何故こんなにきついのだろうと考えていたら、先のクサリ場でエネルギーをかなり消耗していることに気づいた。ともかく足が重い、きついのは多分皆同じだから・・・と自分に言い聞かせ頑張って一歩ずつ進む。11 時 15 分に石鎚山頂に着いた。クサリ場のロスタイムは大きかったが、11 時 30 分には全員が登頂した。

霧が濃いため、細い岩稜が続く最高峰の天狗岳への登頂は取り止める。

先着組は食事も済ませ余裕である。すぐに追いつかれるからと、11 時 30 分には先に下山して行った。２番手組も食事を済ませ後に続く。下山を開始した頃から風も弱まり、霧もきれ始めたが、相変わらず視界は今ひとつである。休憩地点に戻ったあたりから、周りの尾根や下の谷筋が見えてきた。土小屋登山口に 13 時 30 分到着。

登り 2 時間 30 分、下り 2 時間、予定していたコースタイムとほぼ同じだった。

石鎚スカイラインを下る途中、霧の晴れ間から石鎚山が美しい見事な三角錐の姿を現した。井上ドライバーの計らいで撮影タイムが設けられ、皆必死でシャッターを押した。

さて、これから次の目的地つるぎ町へ向けて出発である。松山自動車道、徳島自動車道を抜けて、国道 438 号線をひたすら走らなければならない。松山市の郊外で一足先に帰る鎗水氏と別れた。(実はこの後、鑓水氏も松山で愉快な出会いがあったらしい)

国道に入ったあたりから暗くなったカーブの多い細道をマイクロバスがうなり声を上げながら登っていく。対向車はほとんどいないが、いかにも走りにくそうな山道が続く。

５時間近い座りで腰が痛くなり、そろそろ限界を感じ出した頃、ようやく今夜の宿ラ・フォーレつるぎ山に到着した。19 時 25 分。宿の明かりを見た途端、それまでの緊張が一気にほぐれる。明かりの暖かさがこんなに人を安心させるなんて・・・再発見である。

入浴時間が 20 時までと急かされ、食事前に入浴をあたふたと済ませる。夕食は寄せ鍋である。分量の多さにびっくりするが、皆結構箸が進みお腹いっぱいになった。

米田さんの〆張鶴もご馳走になる。登山と長旅に疲れ、21 時過ぎには床に就いていた。

剣山へ：登山２日目は、昨日と打って変わった晴天。風の強さと冷たさは昨日とそう変わらないが、空の青さで気持ちが明るくなる。登山口の見ノ越には宿から５分で着いた。

剣山も石鎚山と同じく山岳信仰の霊山として古くから崇められてきた山である。

剣神社への石段を上がり、安全登山を祈願して出発。見ノ越からの登山リフトが着く西島駅までは緩やかな登りである。心地よいブナ自然林を縫って行くと 50 分で着いた。ここから剣山山頂へは 3 つのコースに分かれるが、刀掛ノ松から行場コースをとることになっている。刀掛ノ松で全員揃うのを待っていると、3 班のメンバー5 人が西島駅から下山したことを知らされる。風がかなり強く、霜柱が立っている冷え込みなので、用心しての下山であろう。「せっかく四国まで来たのに・・」と思ったが、自分達の体調を考慮した上での判断は勇気の要ることでもある。「自分の身を守り、かつメンバーの足手まといにならない」という判断は認識しているようで実は難しい。　また一つ大切なことを学んだ。こうやって、山行の度に色々な経験を通

して、生きた知識や技術が身に付いていくのだろう。（但し、学習能力があればの話であるが・・・）

行場コースは、細い岩肌の間にクサリの登りがある古剣神社を過ぎた後もどんどん下っていくので、先はまた急な登りがあるのだろうかと危惧していると、大した登りではなく、やがてテンニンソウの群生跡らしきものがある尾根筋に出た。ここから一の森に向けて右に進路を取る。パンフレットに行場付近一帯はキレンゲショウマの自生地で、花の最盛期は混雑するとの記事があった。今回は花登山の醍醐味は味わえなかったが、夏場にまた訪れる楽しみを残しておけば良い。

アカタケカンバ、コメツガ、コバモミノキ、シコクシラベ等の樹林帯を抜けていくと、一の森分岐を過ぎた所に、新田次郎作の殉難碑が立っていた。

二の森を過ぎると長い笹原の道が続いており、シャッターチャンスの場所である。メンバーが一列に並んだ風景を前からと後ろから何枚も撮った。手を上げてポーズをとった福岡リーダーは「自然にして！」と田村さんに注文を受けたとのこと。（バスの中での笑話）

一の森から 30 分程で着いた剣山頂は植生保護のため全面木道になっている。また、測候所や頂上ヒュッテ、雲海荘等の宿泊施設が剣山本宮宝蔵神社と近接して建っているので、霊山のイメージとはかなり程遠い。ただ、平家の馬場と称する山頂台地から眺めた隣の次郎笈は笹のスロープに覆われた美しい姿を見せており、足を伸ばしたい欲求に駆られた。

頂上ヒュッテでちょっとした買い物と暖をとり、祖谷のかずら橋に行けるかも知れないという声に励まされ、早々に下山開始。大剣神社に下るコースを経て西島駅に降りた。

西島駅でリフト下山組と徒歩下山組に分かれた。登山リフトで下ったのは６名、１５分の空中散歩で、少し寒かったが、りょうぶやななかまどの木々の間から美しい三嶺を眺めながら至福の一時を過ごした。リフト組は１２時着、歩き組は１２時２０分に下山口に到着した。西島駅から先に下山した組は、駐車場にある蕎麦やのご主人とおしゃべりをして楽しかったとのこと。祖谷のかずら橋は車の通行が困難ということで見学中止、バスの中で昼食を摂り、そのまま帰路に着くことになった。

昨夜登ってきた山道を下り、美馬ＩＣから高速に乗る。もちろんその前にしっかり飲み物とつまみは買い込んだ。バスの中は無事に登山が終わったことで解放感に溢れている。

今治からしまなみ海道を通り、尾ノ道を経由して山陽自動車道を走る長丁場のバス旅である。井上ドライバーの裁量で適宜トイレ休憩をとってもらうことにする。

バスの中では山行の感想の後、歌あり、昔話あり、解説あり、漫談ありと芸達者なメンバーの話芸で盛り上がった。広島の宮島 SA で夕食を摂り、21 時過ぎに九州に入るとバスは消灯して休憩タイムになった。鳥栖を過ぎるといよいよ長崎自動車道である。

心地よい疲れを乗せてバスは 16 日 0 時 15 分に諫早へ無事到着した。

今回の企画、交渉を一手に引き受け、旅行中細かい配慮をしていただいた山行部長の中須賀 CL に心から感謝します。お疲れ様でした。また、会計等、お世話いただいた方々にも感謝します。楽しい山行を有難うございました。　（記：松園朱實）

＜感　想2＞

17時30分雨模様の中、井上さん運転のマイクロバスで出発。途中金立サーヴィスエリアに立ち寄った後一路小倉港に向かって直走り。小倉港で乗船手続きをし船中へ。それぞれ適当な場所を陣取り遅い夕食。弁当を持参して来た人あり船内の売店で購入する人あり。小倉から松山までは結構な距離。横に成りいつの間にか寝入ってしまった。

5時松山港到着。外は未だ暗い。松山港は過って別府港からキャンピングカーで来たことがある所なので懐かしい。しかし、何処をどう走って居るのかさっぱり分からない。二三度来たくらいでは当たり前であるが。松山市内(愛媛県の県庁所在地／夏目漱石の「坊ちゃん」で知られた所)を通って石槌山に向かう。

四国は何処を走っても山山山である。山間を曲りくねって流れる川傍の少し高くなっている所に家が窮屈そうに建っている。道は狭く上り下りが多いので小学校などは5㎞に1校位の間隔で建っていることも珍しくない。

進む道も高度があがると谷川がずっと下の方に成って来る。崖にへばり付くように生えている落葉樹は秋の風情を満喫させてくれる。石槌山へは左下がりの崖（深い谷）と右上がりの崖との狭い間(道)を登って行く。朝が早かったのか、この時期余り見どころが無いのか車の離合が大変というようなことは無かった。一寸した広場に到着。「まあだ、だあれもいなあい」状態。広場に到着したころから風が強く霧が深く成って来た。この場所が丁度分水嶺になっており風が吹き上がって来やすいのかも知れない。三浦散策(大村三浦)の時のことが頭を過ったので、此処の広場で皆さんの帰りを待つことにした。ぽつりぽつり観光客風の人たちがやって来る。霧に煙るカラマツも良い被写体である。時間が経つのも忘れて写真を撮りまくる。頂上を目指した皆さんが無事の帰還。整理体操をして帰路（剣山）に就く。

一旦松山に戻り松山自動車道を東に直走る。美馬インターチェンジを下り吉野川を渡る。しばし休憩。井上さんが四国の3桁国道は大変だと言っておられたことを実感することになった。道が狭いこと狭いこと。それに日が暮れてしまったので何処をどう進んでいるのかさっぱり分からない。それに加えてくねくね道、誰もが来れる所ではないのでは。

ようやく今日の宿に着く。洒落た建物である。荷を下ろし温泉に浸かり言う事なしの料理を食す。

翌朝は早い出発。見の越は剣山への登山口。宿からは直ぐの所。柔軟体操などをして行動開始。頂上まで組とリフト駅まで組と分かれる。後者はゆっくりオレンジである。ゆっくり組ではあるが結構きつい。

西リフト駅に到着。西リフト駅は山の中腹の平坦な所にあり、周囲の山々や遠くの山々を眺望できるが、駅舎に下の方から風が吹き上がって来て、掻いた汗を冷やし寒いこと寒いこと。早々に下山の途に着くも周囲の風景を愛でながらの帰路は楽であった。

先発の皆さんが下山して来るまで見の越への登り道を逆に行き、道脇の草木をカメラに収める。左手上方には剣山がどっしりと。頂上には建物も見える。宿泊できる施設のようだが山全体の良さを壊しているように見えるが、頂上から下方まで草に覆われたおやかな山容である。頂上までの皆さんが戻って来た。暫し休息の後帰路に着く。

前日真っ暗で何も見えなかった道だが、よくもまあこんな道を登って来たものだなあと吃

驚。時々上って来る自動車と離合するのが大変。しかし、車窓から見える林は紅葉に彩られ絶景である。吉野川近くの貞光ゆうゆう館で一息を入れ、吉野川に架かる橋を渡り松山自動車道の美馬インターチェンジに入り西へ西へと直走る。途中石槌山サービスエリアで一休み。此処から石槌山が見えるとのことであったがその方角は、山山山でどれが石槌山か確認することは出来なかった。

四国側から飛び石状に連なる六つの島を繋ぐ、しまなみ海道を渡り切ればもうそこは本州。大浜パーキングエリアがその最後の地点。福山西で山陽自動車道・九州自動車道を直走り西諫早駅広場に着いたのは時計の針が翌日に入った頃であった。　　(小山　記)

12 月 9 日(水)　　小浜～唐比ウオーク

〈参加者〉中村　酒井　下釜　森　江崎　佐原　本秀　　佐藤　松尾と　林田　計　１０名

〈行程〉　諫早駅前バスターミナル発 8:20→小浜着 9:20
小浜 9:30～富津 10:30～木津の浜駅跡 11:10～千々石海水浴場 12:00 昼食
12:30～唐比 13:30～唐比発 15:54～諫早

〈感想〉　朝からどんよりとした天気で、今日１日何とか降らないでほしいと祈りつつバスに乗る。

例年とは逆コースで小浜で下車し、準備運動のあと出発。小浜町入口の大きな看板の前で記念写真を撮った。国道を渡って左下の道路へ。仲良しの２人組は海のそばを歩くと言って、消えてしまった(心配)。しばらく歩いたところに{竿の午前様}の立て札があり、Ｓさんだけは見たことがないと言われたので、案内した。歩きながら「見ての感想は？」と聞いてみたら「とても勇気づけられました」そうです(笑い)。先の２人も途中で加わり、富津地区の六角井戸を見て町中を通り高台に出た所で振り返ると、出発点の小浜町が見えた。出発して丁度１時間たっていた。山や波静かな海にうつる島影も逆コースなので又変わった風景で、道端には可愛い黄色の油菊や季節はずれのスミレの花も咲いていて心がなごみます。旧小浜温泉鉄道木津駅跡やトンネル２つを抜け、昔をしのび、おしゃべりしながらのんびり歩いた。先へ進むにつれ道路わきの空き缶やペットボトルなどゴミの量が多くなり、海岸には大量のゴミが集められていた。地域の人たちも困っておられることと思う。千々石海水浴場のところで休憩昼食をいただく。

ここを出発する頃には雨も降り出した。唐比にはいり、バスで帰る人と温泉組に別れ４人だけ唐比温泉でゆっくり疲れをとった。今日も楽しい１日を過ごせて幸せでした。　　(林田　記)

祝 オレンジHC創
66歳　歩いて
日本列島内陸部縦断
講 演

祝 オレンジHC創立30周年
長崎
オレンジハイキングクラブ

祝 オレンジHC創立30
長崎

祝 オレンジHC創立30周年

HC創立30周年
長崎

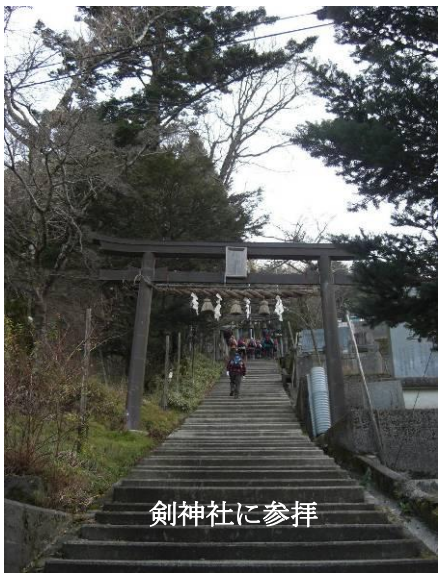
祝 オレンジHC

剣山一の森過ぎの登路

石鎚山遠望

剣岳山頂

ガスの石鎚山山頂


剣神社に参拝

油　菊

三の鎖場

旧小浜温泉鉄道トンネル跡